「地球という監獄」

巡芳もとめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
「地球という監獄」

【Ｎコード】
Ｎ２５１８Ｚ

【作者名】
巡芳もとめ

【あらすじ】
（２０１１，８，７，に書いたもの）
※ネガティブな言葉山盛りなので、そういう言葉を目にしたくない方は読まない方が良いと思います―ω・、）
地球とは、前世か他の次元で罪をおかしたものが入れられる監獄。
今この地球で苦しみ死にたいと思い、それでも死ぬまでにいたっていない勇気がないという人々は、

それが何者かから課せられた、この地球という牢獄での「刑期」なのだ。
それぞれ個々、自分の年齢と同じだけの年月、刑期の中にいる。
この地球という場所から逃れたくても、逃れて他の星に行ける者は誰もいない。
当たり前だが、酸素や温度など環境が適していないからだ。
なぜそうなってるのか？
もちろん、この地球という監獄から脱走しないためだ。

（前書き）

（２０１１，８，７，に書いたもの）

※ネガティブな言葉山盛りなので、そういう言葉を目にしたくない方は読まない方が良いと思います。

―ω・、）

地球とは、前世か他の次元で罪をおかしたものが入れられる監獄。
今この地球で苦しみ死にたいと思い、それでも死ぬまでにいたっていない勇気がないという人々は、
それが何者かから課せられた、この地球という牢獄での「刑期」なのだ。
それぞれ個々、自分の年齢と同じだけの年月、刑期の中にいる。

この地球という場所から逃れたくても、逃れて他の星に行ける者は誰もいない。
当たり前だが、酸素や温度など環境が適していないからだ。
なぜそうなってるのか？
もちろん、この地球という監獄から脱走しないためだ。

私の中で出た結論はこうだ。

私は私の寿命を自ら決める。
いや、そんなことが可能かはわからない。
でもそれに一縷の希望をたくす。

人は潜在意識への強烈な信念と深い暗示によって、
時に自分の体の状態を大きく左右する力を誰もが持ってる。
ただの風邪薬を貴重な特効薬だと医者が暗示して飲ませると、とたんに重病が消え去ったり。
逆に、同じくただの風邪薬を飲ませ、そのあとにそれは毒だといったとたん、
心臓発作を起こして死んだりする。
昔は自分の寿命を予知して、本当にその年月日に息を引き取るということもよくあった。

だから私はそれに希望をたくしたい。
私の寿命はあと一年でいい。

そして私は悟った。
やはりこの地球というとこは監獄、牢獄なのだと。
もしかしたら前世か他の次元で罪をおかしたものが入れられる場所がこの地球かもしれないと。
そう考えるといろいろなことがいっきに自分の中でつながった。
そして私は現在、自分の年齢と同じ年月の刑期の中にいるのだ。
更に私はあと1年でその刑期も終わると思いたい。
そうすれば、この苦しみしか存在しない地球という牢獄からやっと

解放され、
無になれるのだ。
もしそうならなかった場合はまだ刑期は続くということだ。

自分で自分の寿命をコントロールして決めればいい。
今この地球で苦しみ死にたいと思い、それでも死ぬまでにいたっていない勇気がないという人々は、
それが何者かから課せられた、この地球という牢獄での「刑期」なのだ。
そう成るように成っているのだ。
そうとしか思えない。だったら何故この世はこんなに悪で満たされて、誰もが苦しんでいるのか？
「幸せな場所であっては意味がない」からだ。
でもこの地球にいる意味を理解できない人類たちは皆、
「なぜ自分はここに生まれてきたのか？」
「なぜ生きるのか？」
「生きる意味は何なのか？何のためなのか？」
と誰もが一度は考える。一生考え続ける人もいる。
でも結局明確な完璧な答えは誰も知らないまま、辿り付けないまま死んでゆく。
その混沌と苦しみ悩み不安恐怖などなどが、この地球という監獄で課せられた刑期の内容なのだ。
だから人によって懲役何年かはばらばらだ。
いつ何の罪でそうなったか、誰が決めたかはわからない。

でも私は今はっきりとそう思った。
あらゆるスピリチュアル本だの、願いがすぐ叶うとか、宇宙は願いを叶えてくれる、神はあなたがたを愛している、引き寄せの法則、などなど多種多様なそのたぐいの本を読んでもどうにも納得がいかなかった。

矛盾が山のようにあって、その矛盾については、どの本も暗黙の了解のように避けて通り、あえて触れないようにして、綺麗事の言葉ばかりが並べたてられていた。
でも地球にいる人類はそんな地球での意味を知るよしもないので運命にあらがう。
そしてあらゆる幸せを喘ぎ求めてさまよい、幻想の中で幸せを必死に見出そう作り出そうとする。人生を一生かけて。
あらゆる娯楽や美しいとされるもの、芸術や夢や癒しを試行錯誤していくつもいくつも次々と作り出す。
そうこうしてるうちに今地球にはたくさんの便利なものや娯楽が生まれた。

なのに、
それでも人類はいまだ満たされない。
悩んで悩んでまた他の幸せを求めてあらたな物を作り出す。
でもそれでも満たされない。
地球はいっこうに平和にもならなければ、自殺者も戦争も犯罪も悪もイジメも後を絶たない。
それはなぜなのかと苦悩し、それをどうにか解決すべく正当化すべく、人はそれに答えを出そうと希望に満ちた内容の本をたくさん書き、希望のある映画や音楽を作る。
それによって人は満たされる。満たされたかのように錯覚する。
でもまた苦しみに襲われ、また苦悩する。
永遠に、その繰り返しだ。
仏陀は「この世は苦そのものである」という。
キリストは自分の罪でない他人の罪を全て強制的に母マリアから課せられ処刑され、
この世と人間の醜さを恨んで死んでいった。
その彼をめぐって世界ではすさまじい戦争と殺戮が繰り返された。
もしかしたらそれは彼の復讐の念が起こしたものだったかもしれな

いと私は思う。

人類にかかわらず、日々この地球では殺戮やイジメが繰り返されている。
動物や虫の世界でもだ。
たとえ人類から殺人が一切消えさったとしても、動物や虫も日々殺しを繰り返している。
彼等もまた何らかの刑を背負ってこの地球にその姿で産み落とされたようにしか見えない。

人が美しいと思うものを作り出そうとする本能があるのは、
この世は苦であるとどこか無意識の意識化で本当は悟って感じているからかもしれない。
本当は己の存在の意味を、この地球にいる意味を実は知っているのかもしれない。
それから目をそらすために、美しいと錯覚するものを作る。
楽しいのだ幸せなのだと錯覚するものをみんなで作る。
何とかあらがおうとする。
戦争や殺人をしてる者達も、生まれてすぐ赤子の時点でそんな願望があったわけじゃない。
生きていくうちにだんだん人生の苦を知り、悲しみ葛藤し苦しみ悪が生まれ、その行為に至った。
それがいいと言ってるわけじゃない。だから仕方ないのだ、と言ってるわけではない。
そうじゃなくて、なぜ苦しいと感じ、そういう人格に至ったのか、ということだ。
まさに、それは、地球が「そういう場所だから」だ。
苦悩する場所という風にあらかじめ設定され、刑期を受けるためにあるのだから、当然なのだ。

ここは
この地球という場所から逃れたくても、逃れて他の星に行ける者は誰もいない。
当たり前だが、酸素や温度など環境が適していないからだ。
なぜそうなってるのか？
もちろん、
この地球という監獄から脱走しないためだ。
地球の生物がこの監獄からは絶対に抜け出すことができないように、そう設定されているのだ。
そして仮に地球から出ることができても、そこは無限の闇。
なぜそうなっているか？
もちろんそれも、この空間から逃れようなどという考えを持たないようにだ。
外にでても無限の闇しかない、何もない、行く宛てもない、ゴールも果てもない、その向こうに何があるのかなど分からない、と洗脳するためだ。

それこそが地球という場所の目的なのだ。

寂しいってみんなよく言うけどわからない。何がどう寂しいの。
私には怒りやイライラ以外の感情はもう自然淘汰されて完全消滅したのではないかと思うほどだった。
人が笑っててもも笑う気力がない。人が感動して泣いててもも、私だけこれといって何もない。
寂しくもなければ悲しく泣くこともなくなっていった。
地震がきても恐怖を感じない。
皆が悲鳴をあげて机下に隠れる中　、私は一人揺れる机で仕事を淡々としていた。

会社でみんなが笑ったりして喋りあってる。
よくあんな気力があるなと思いながら溜め息を深くつきながら死んだような目で仕事をする。
ただ、毎日朝がくる。自分の目が覚める。だから仕方なくまた同じ会社に行く。
ただそれだけのこと。その繰り返し。

けどそれらは無意識の感情封印だった。
いつの間に自分の知らぬ間に自分は感情をどれだけ殺し、揺るがないよう、人に悟られないよう、関わらないよう封印してきたのか。
最近、
全く何の予感もなく、何も感じないまま、突如、どっと泣き出し嗚咽が止まらないということがでてきた。怖かった。だって、何の予感もなく前触れもなく、自分が泣き出したのだ。
人格分裂でも起こしてるのかと思うほど。

壮大な景色も、素敵な人も、夢のような時間も、我を忘れる楽しさも、打ち震える感動も、その瞬間だけ
。ほんの一瞬。終わったらもうたちまち暗黒。
まるでエサで釣られてる気分だ。
きっと、もし神がいるなら、そういうエサをたまにちょこちょこ見せて、道に1つ1つ落としていって、
人生の終わるそのときまで何とか生かせて進ませて、もたせようとしてる気がしてならない。
人間は神に飼われたペット。
一瞬の栄光を見せても、そのあとにその頂点から容易に突き落とす。

愛なんて言葉、大嫌いだ。
私は感情を捨て去ろうと何度もつとめる。

感情を感じないように、ロボットのようにいようと。
自分で自分の感情を無視して自分の感情に対して無反応につとめる。
この地球という監獄で、刑期を終えるその日までひたすら耐え忍ぶだけだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2518z/

「地球という監獄」

2011年12月8日23時56分発行